

蒙文孝経の字母表

吉池孝一

蒙文孝経の字母の研究には以下がある。

1. 「モンゴル語訳『孝経』の言語について」と題しての、言語文化接触に関する研究プロジェクト(1997.1.30。於:AA 研)における、栗林均氏の口頭発表。そのレジюмеに「モンゴル語古訳本『孝経』の字母表」として、字母一覧表(資料の複写を切り張りしたもの)が添付されている。

2. 栗林均 1997「モンゴル語古訳本『孝経』における正書法上の一特徴」(『論文与記念文集』内蒙古大学出版社、1997年8月発行。pp.264-278、論文末年時1996.02.29)。tawとdälethの書き分け規則について論じている。字母一覧表はない。

かねてより、サイト「古代文字資料館」にウイグル文字(モンゴル語用)の字母一覧表を載せたいと考えていた。字母表にはさまざまな形式のものがあるけれども、印刷用にデフォルメしたものよりも、資料の複写を切り張りし作成したものが、実用においては便利であるとも感じていた。上記1のように、切り張りによる使いやすい字母表が既に專家のレジюмеとして配布されているのであるが、印刷物として一般に公表されているかどうか寡聞にして知らない。レジюмеを勝手に使用することも憚られる。そこで、サイト「古代文字資料館」には、自作の字母表をのせることにした。サイトに先立ちKOTONOHA紙に掲載し、一言を付す次第である。

十年程前のことである。対音対訳資料研究会(1996.3.7。於:富山大学)という少人数の会合の席上、「漢蒙対訳孝経ウイグル字字形表」と題して報告をした。そのおり字母一覧表のコピーをお配りした。右はその時のものである。以来、この字母表を、ウイグル文字によって記されたモンゴル語文献を見るときの手控えとして使っており、手前味噌ながら、なかなか便利なものだと感じている。或いはこのような字母表は、更に正確で使い易いものが他に公表されているかもしれないけれども、とりあえず、そのまま掲載することとした。

本字母表は、切り張りで作った表である。文字の切り出しにおいて上記1の表と異なる部分もある。その点で、資料の一つともなりえよう。注の内容はほぼ当時のままであるが一部表現を改めた。

番号	転写	字形			
		初頭	中間	末尾	单独
1	a				
2	e				
3	i				
4	o u				
5	ö ü				
6	n				
7	ng				
8	q				
9	ɤ				
10	b				
11	s				
12	š				
13	t d				

番号	転写	字形			
		初頭	中間	末尾	单独
14	l				
15	m				
16	č				
17	ǰ				
18	y				
19	k g				
20	r				
21	v				
22	bo bu				
23	bō bū				
24	kō kū gō gū				
25	gs				
26	ngǝ				

注

- no.1 「a」：末尾 b)と c)は、版木の下端に位置した時に用いる臨時的な字形（以下、「下端専用字」とする）。末尾 b)には「t,d」の後の例がある。末尾 c)には「b」の後の例がある。単独 b)は下端専用字。
- no.2 「e」：末尾 b)と c)は下端専用字。末尾 b)には「č,t」の後の例がある。末尾 c)には「k,g」の後の例がある。単独 b)は下端専用字。
- no.6 「n」：末尾 b)は下端専用字。
- no.7 「ng」：末尾 b)は下端専用字。
- no.13 「t,d」：中間 a)は母音字及び子音字の前。中間 b)も母音字及び子音字の前。末尾 b)は下端専用字。末尾 c)は「ed」という一語のみ。
- no.16 「č」：中間 a)と b)は区別無く用いられる。
- no.17 「j」：中間 b)は「eĵed」という一語のみ。
- no.19 「k,g」：末尾 b)は下端専用字。
- no.24 「kō,gō,kū,gū」：孔夫子や周公の「孔」「公」など、漢語を音写した語の初頭では中間字形が用いられる。